

高校野球における投手の配球に対する打撃結果についての研究

～投手と打者の左右の違いに着目して～

A study of batting result from a combination of pitching in high school baseball

～ Focusing on the difference between the side of the pitcher and batter ～

1K07B178-1

福島直史

指導教員 主査 土屋純先生

副査 葛西順一先生

【目的】

野球の投手と打者の左右の組み合わせはサイドスロー投手も加えると 8 パターン存在する。それにもかかわらず、これまでそのパターンの違いに着目した配球の研究は非常に少ない。そこで、今回は高校野球における投打の 8 パターンの違いに着目し、それぞれのパターンでの配球の傾向とそれに対する打撃の結果を分析することで、今後配球指導や打撃の指導においての指標にし、より適切な指導を行えるようにすることを目的とした。

【方法】

DVD レコーダー (Panasonic 社製) を使用して、第 92 回全国高等学校選手権大会埼玉大会のベスト 4 以降の 3 試合と第 92 回全国高等学校選手権大会の 40 試合を NHK、NHK 教育テレビから録画し、投手が投じた全ての投球を投打のパターン別 (今回は左サイドの投手が存在しないため 6 パターン) に記録した (NHK、NHK 教育テレビの放送方法の関係で記録できなかった投球がある)。第 92 回高校野球選手権大会埼玉予選の打者 145 人 548 球と第 92 回高校野球選手権大会 2097 打者 8083 球の合計 2242 打者、8631 球を分析した。その記録は Excel を使用して集計、分析しグラフを作成した。そのグラフをもとに、投打のパターン別の傾向を分析した。

【結果】

投打のパターン別で様々な違いが表れた。右投手対右打者においては、内角球から外角球への配球で三振を取る確率が高いことがわかった。右投手対左打者においては特筆すべき数値は出なかった。右サイドスロー投手対右打者においては、変化球の割合が高い。また三振率と凡打率の高さ、打率の低さから投手が有利であることが分かった。特に外角球において三振率が高くなっていた。右サイドスロー投手対左打者においては、凡打率、三振率ともに低く、

打率が高い傾向にあることから、打者が有利であることが分かった。外角球の割合が高く、内角球の割合が格段に低くなっていた。左投手対右打者においては、内角球の割合が高くなっていた。クロスファイヤーといわれるこのボールは三振率も高くなっていた。その反面、全体の三振率は低く、フォアボール率が高くなっていた。左投手対左打者においては、一般的に言われている打者の不利を裏付けるような結果は出なかった。打率は全パターンの 2 番目の高水準であった。

【考察】

一般的に言われていた、右投手に対する左打者、左打者に対する左投手の優位性は、今回の研究では見られなかった。右投手は左打者に対して絞りにくいバランスのとれた配球を行い、左打者は左投手の外角球中心の配球を読み、外角球をレフト方向に安打するといったことがしばしば見取れた。それが結果にも表れた。各チームや各選手が今までの通説を覆す努力をしている結果であると推測できる。よって、今後は個々のチームや選手のレベルアップに対応して、今までの通説にとらわれない配球や打撃を行っていかねばならないことが示唆された。例えば左投手の右打者における配球はクロスファイヤーという武器がありながらも三振率が低く四球率が高い。これはクロスファイヤーに頼った配球とそれ以外の決め球の少なさを示唆している。こうした傾向から投手は新たな決め球の研究と配球の研究を行っていかねばならない。右サイドスロー投手に対する右打者は、外角の変化球に泳がないような打撃を研究していかななくてはならない。また今回の研究で現れた傾向は、日本の高校野球における変化を示唆した。チームの特色はスピードに重点が置かれる傾向が強く、その傾向は半数を超えた左打者に表れている。